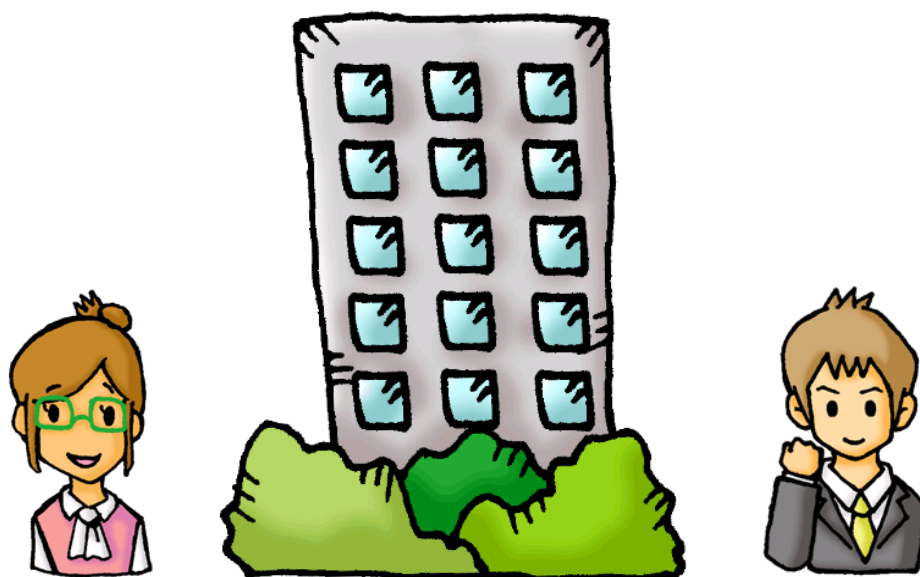


どうなっているの 柏市の財政

平成22年度版



柏市の財政状況を
わかりやすく
解説しました。

予算は「税金の使い方を決めること」で、決算は「結果として、どのように使ったのか」を確認することです。

民間の会社では、特に決算は会社の業績のまとめであるため注目されます。しかし、行政の場合は、予算に基づき業務を行いますので、予算も決算も大きく数字が変わることがなく、ゆえに予算が注目される傾向にあります。

今回お知らせするのは平成22年度の決算報告ですが、それと同時に柏の財政状況の報告にもなっています。財政状況は昨年度よりも良くなっていますが、それでも千葉県内の同規模の市と比較すると厳しい状況が続いています。つくばエクスプレスの整備に連動した北部開発の先行投資や、過去の借金返済などが主な理由です。また、市税収入は減少傾向にあり、一方で福祉的な意味合いを持つ扶助費の増加が止まりません。この状況を放置すれば、間違いなく収支不足、つまり「お金が足りない」という状態に陥ります。

1,000億円を超える財政を理解するということは大変なことです。しかし、今ここにある「危機」を正確に認識せずに問題を先送りしてしまうことは、長期的に見て良いことではありません。そこで、この複雑な財政問題を理解していただくために「どうなっているの柏市の財政」を作成しました。これから財政問題を踏まえた将来の柏について、市民の皆さんと議論をしていきたいと思えます。

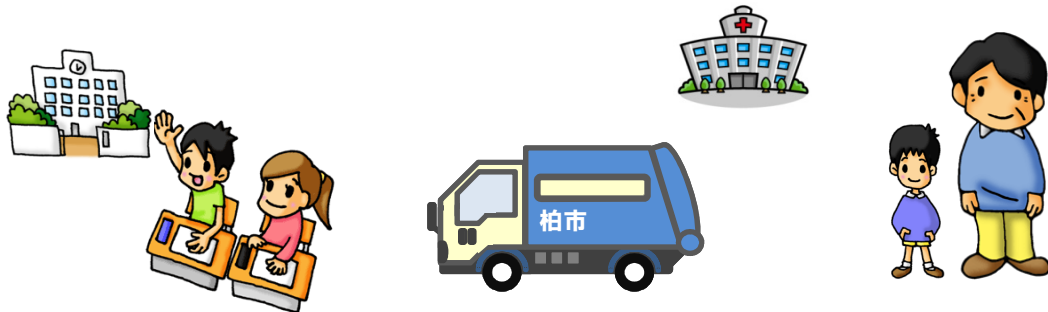
平成23年12月
柏市長 秋山 浩保

目次	1 財政ってなに？	1
	2 平成22年度決算を見よう	2
	3 柏市の財政状況はどうなっているの？	7
	4 柏市の借金はどうなっているの？	15
	5 柏市に貯金ってあるの？	20
	6 健全な財政運営のためお金の使い方や 集め方を見直します	21

1 財政ってなに？

財政は市民生活に必要なサービスを提供するうえで重要な役割を果たしています

地方公共団体は、保育園や小・中学校の運営をはじめ、ごみの回収や処理、子育てや高齢者、障害者の支援、道路や公園、水道、下水道の整備や維持管理など、さまざまなサービスを行っています。

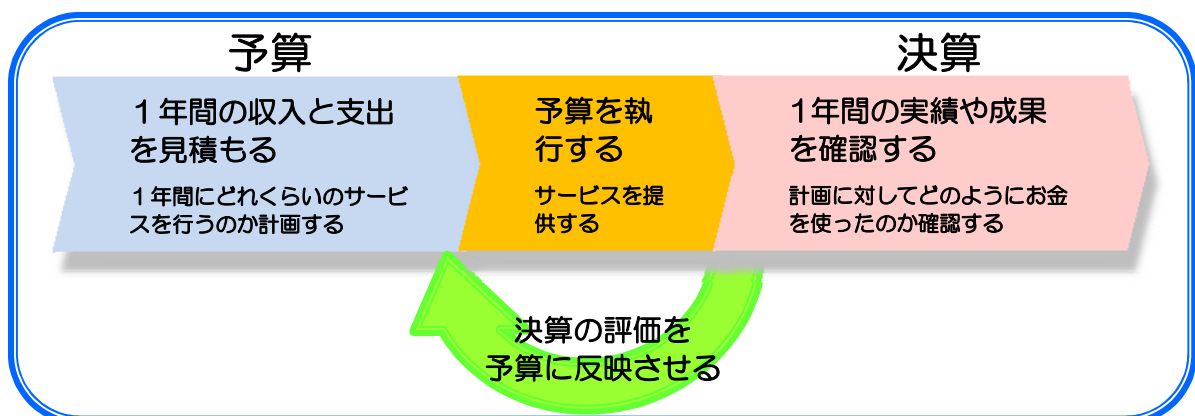


これらのサービスを計画的に行うために、毎年度、

- ① 使えるお金がどれくらい集まるかを予測したり、
- ② お金の使い道を決めたり、
- ③ 予定どおりにお金が使われたかを確認します。

この資金調達から収支状況の確認まで、お金の管理や運用状態のことをまとめて財政といいます。

★1年間に使えるお金がどれくらい集まるかを予測したり計画したり、その使い道を決めたりすることが予算で、その予算を1年間でどのように使ったか確認することが決算です。



2 平成22年度決算をしてみよう

柏市には「一般会計」「特別会計」「企業会計」の3種類のお財布があり、すべての会計が黒字です

一般会計

福祉、医療、子育て、教育、道路や公園の整備など、市民の暮らしや、まちづくりに必要な基本的な行政サービスを行う会計です。
市税は主にこの一般会計で使われています。

特別会計

保険料など特定の収入によって事業を行い、その収支を明確にするために一般会計とは別に設置した会計です。
国民健康保険事業など12の会計があります。

企業会計

民間企業と同じように事業収益によって運営している会計です。
病院事業と水道事業の2つの会計があります。

平成22年度はすべての会計が黒字で運営できました。ただし、前年度と比較すると一般会計の黒字額は減少しています。これは将来に備えて財政調整基金への積立てを行ったためです。

《会計別黒字の状況》

区分		21年度	22年度
一般会計		47億円	41億円
特別会計	① 国民健康保険事業	22億円	30億円
	② 下水道事業		
	③ 公設卸売市場事業		
	④ 老人保健事業		
	⑤ 公共用地取得事業		
	⑥ 駐車場事業		
企業会計	⑦ 介護老人保健施設事業	112億円	118億円
	⑧ 介護保険事業		
	⑨ 北柏駅北口土地区画整理事業		
	⑩ 学校給食センター事業		
	⑪ 母子寡婦福祉資金貸付事業		
	⑫ 後期高齢者医療事業		
	② 水道事業		

※詳しい内容は「平成22年度決算の概要（市ホームページ）」で見ることができます。

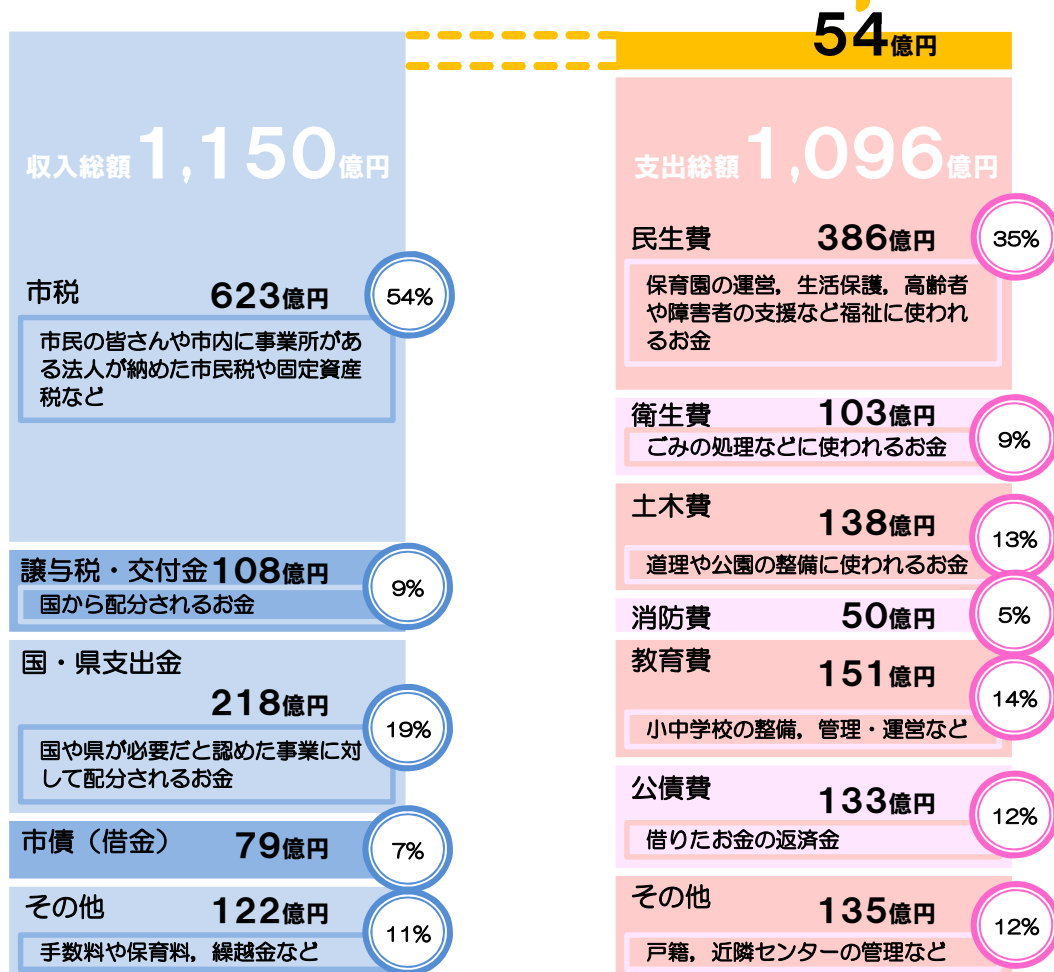
一般会計は41億円の黒字となりました

一番身近なサービスを行っている一般会計を例に、収支の状況がどうなっているのか見てみましょう。

一般会計の決算は、収入では市税や地方交付税が予算を上回ったこと、支出では経費を節約したことにより**41**億円の黒字となりました。

収入総額から支出総額を差し引いた54億円から、平成23年度に繰り越した事業の財源（13億円）を引いた**41**億円が実質的な黒字です。

13億円は使い道が決まっています！



※詳しい内容は「平成22年度決算の概要（市ホームページ）」で見ることができます。

黒字は何に使われるの？

黒字は翌年度の補正予算の財源として使われます。

本来、予算は当初予算のみの一回とするのが望ましいのですが、国の補助金等の変動や緊急やむを得ない場合などには事業を追加したり、中止したりすることがあります。この事業の変更に伴う予算を補正予算といいます。

平成22年度は当初予算と4回の補正予算で、平成21年度の黒字額（繰越金）47億円を使いました。

《平成22年度補正予算の内容》

予算区分	予算額	左のうち繰越金	補正の内容
当初	1,119億円	19億円	前年度繰越金として
6月補正	2億円	-	女性特有のがん検診事業ほか
9月補正	8億円	3億円	こんぶくろ池公園整備事業ほか
11月補正	7億円	2億円	生活保護費ほか
2月補正	17億円	23億円	学校施設整備、予防接種事業、財政調整基金積立金ほか
合計	1,153億円	47億円	

※2月補正では、当初予算に計上していた基金の繰入れを取り止めたため繰越金の額が予算額を上回っています。

平成22年度決算の黒字額**41**億円は、震災復興支援事業や放射線対策事業のほか、当初予算には計上できなかった緊急性や必要性の高い事業の財源として使われています。

平成23年9月補正予算までで**18**億円の使い道が決まりました。



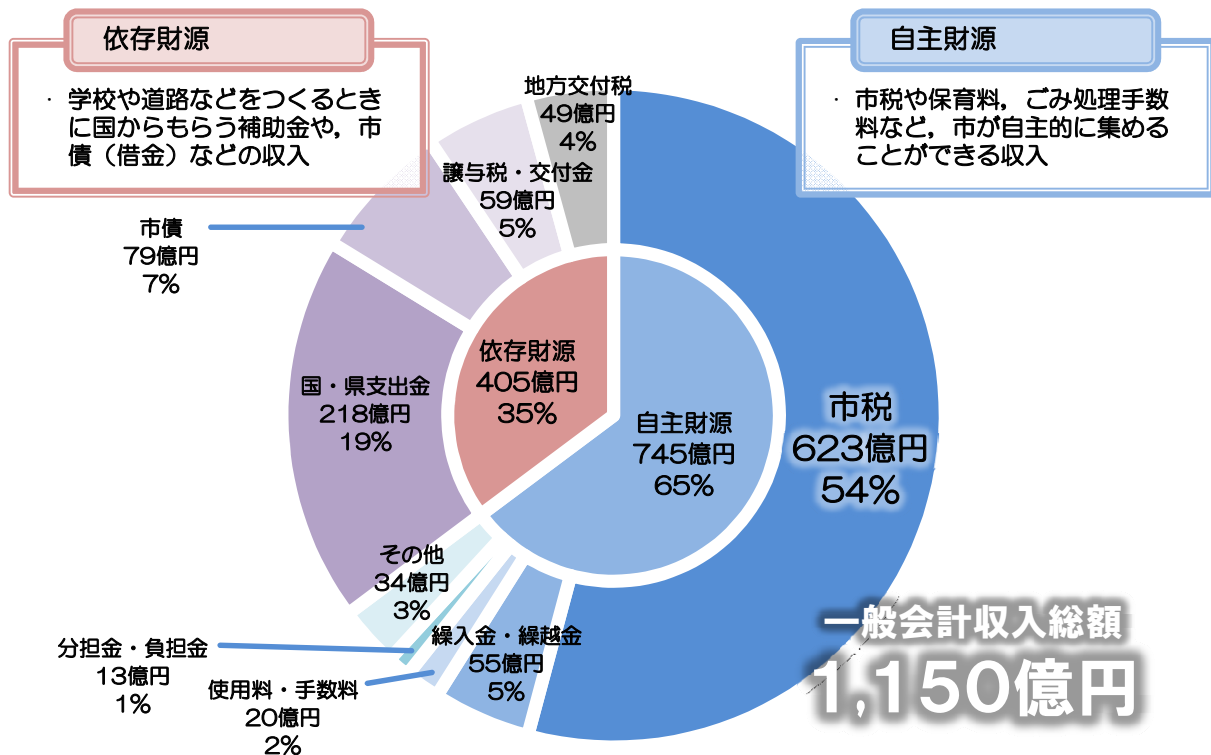
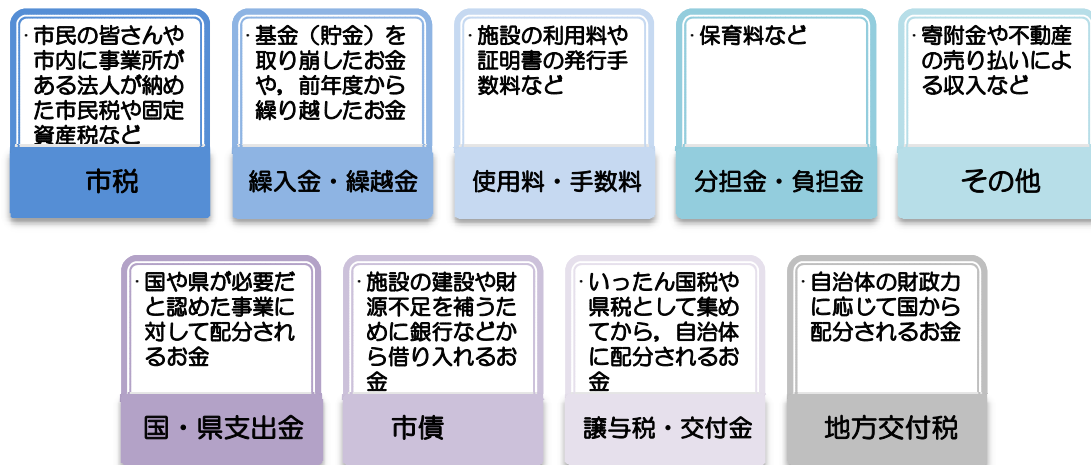
《平成23年度補正予算の内容》

予算区分	予算額	左のうち繰越金	補正の内容
当初	1,129億円	15億円	前年度繰越金として
6月補正	5億円	-	庁舎駐車場整備事業、高柳駅西側特定土地区画整理事業ほか
9月補正	7億円	3億円	東日本大震災関連事業、放射能関連事業ほか
11月補正	?	?	
2月補正	?	?	
合計	1,141億円	18億円	

収入では、市税収入が全体の半分以上を占めています

収入には、市税のほか、国や県からの補助金、市債（借金）などがあります。収入の柱である市税収入は全体の54%を占めています。

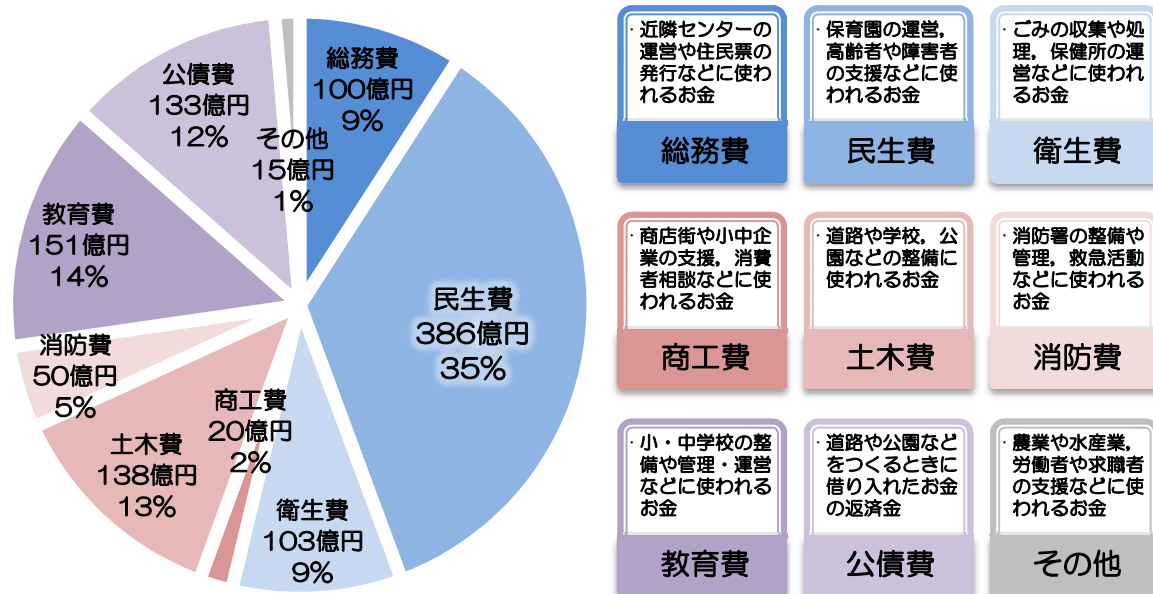
また収入は「自主財源」と「依存財源」に分けられます。自主財源が多いほど財政が安定し、市独自の事業をより多く行うことができます。



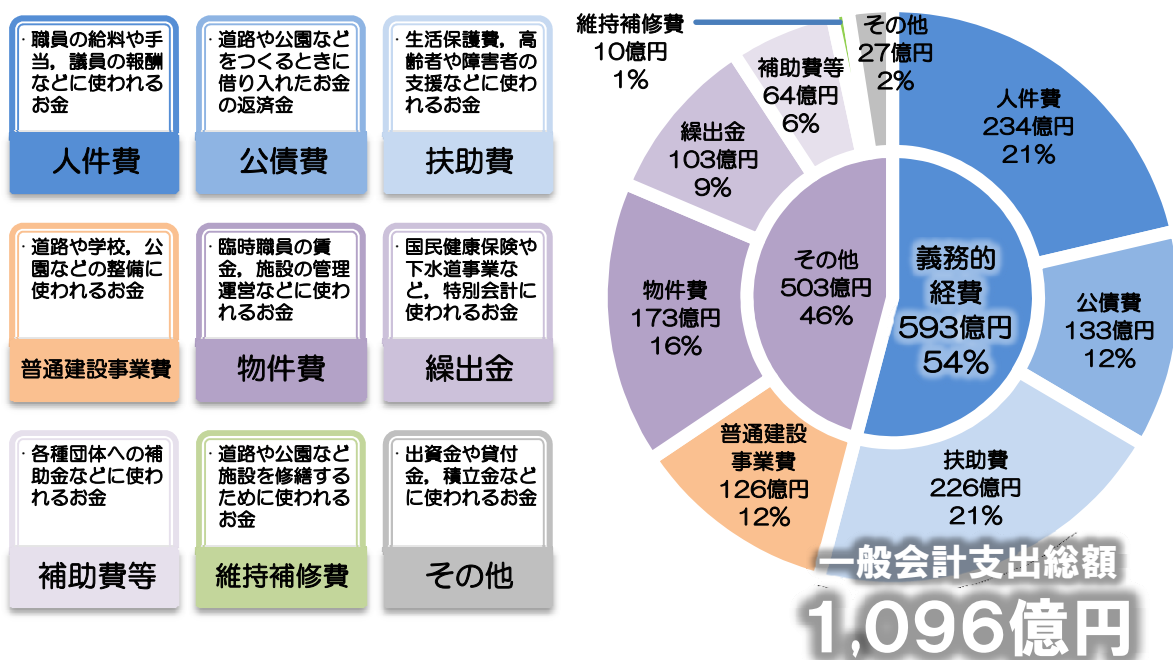
※詳しい内容は「平成22年度決算の概要（市ホームページ）」で見ることができます。

支出では、目的別で見ると「民生費」、性質別で見ると「義務的経費」の割合が大きいです

支出の状況を目的別に見てみると、民生費（子育てや高齢者、障害者の支援など福祉関係の支出）が全体の3分の1以上を占めています。



支出の状況を性質別に見てみると、毎年度必ず支出しなければならない義務的経費（人件費・公債費・扶助費）が全体の半分以上を占めています。



※詳しい内容は「平成22年度決算の概要（市ホームページ）」で見ることができます。

3 柏市の財政状況はどうなっているの？

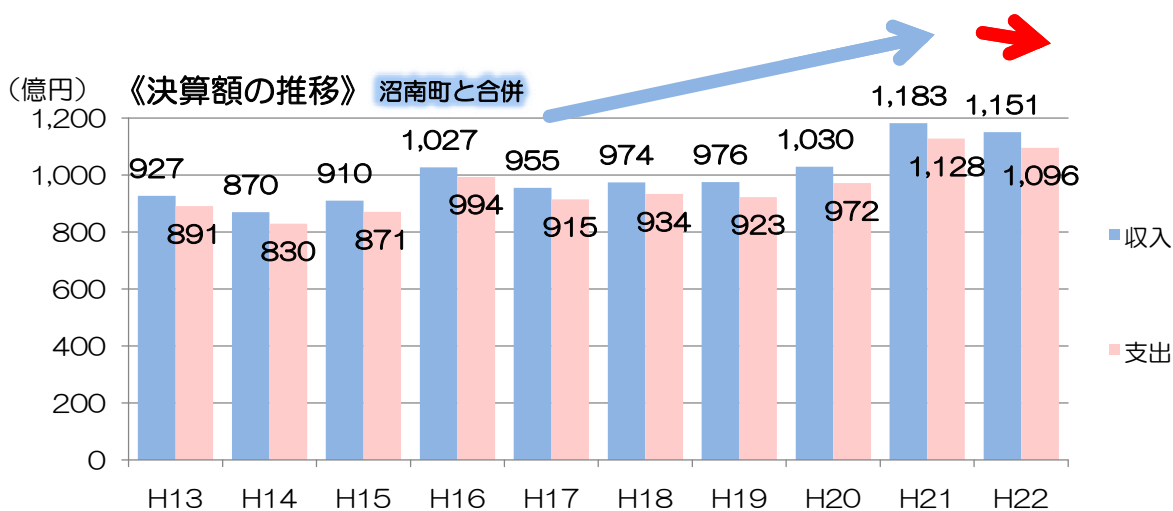
収入支出ともに前年度と比べて減少しています

ここからは他市と比較しながら柏市の財政がどのような状況になっているのか、『普通会計』の決算で見ましょう。

決算の規模は、平成18年度以降増え続けてきましたが、平成22年度は収入支出ともに前年度と比べて減少しました。

主な要因は、収入では①市税収入が減少したこと、②新たな借金を抑えたこと、支出では①大型の建設事業が終了したこと、②経費の節約に努めたことによるものです。

※普通会計とは他市との比較に使う会計です。柏市の普通会計は、一般会計に特別会計（12会計）のうち公共用地取得事業、北柏駅北口土地区画整理事業、学校給食センター事業、母子寡婦福祉資金貸付事業の4つの会計を合わせたものです。



※収入支出の内訳は「決算カード（市ホームページ）」で見ることができます。
次ページ以降で掲載の市民1人あたりの金額は各年度の住民基本台帳の人口で算出しています。

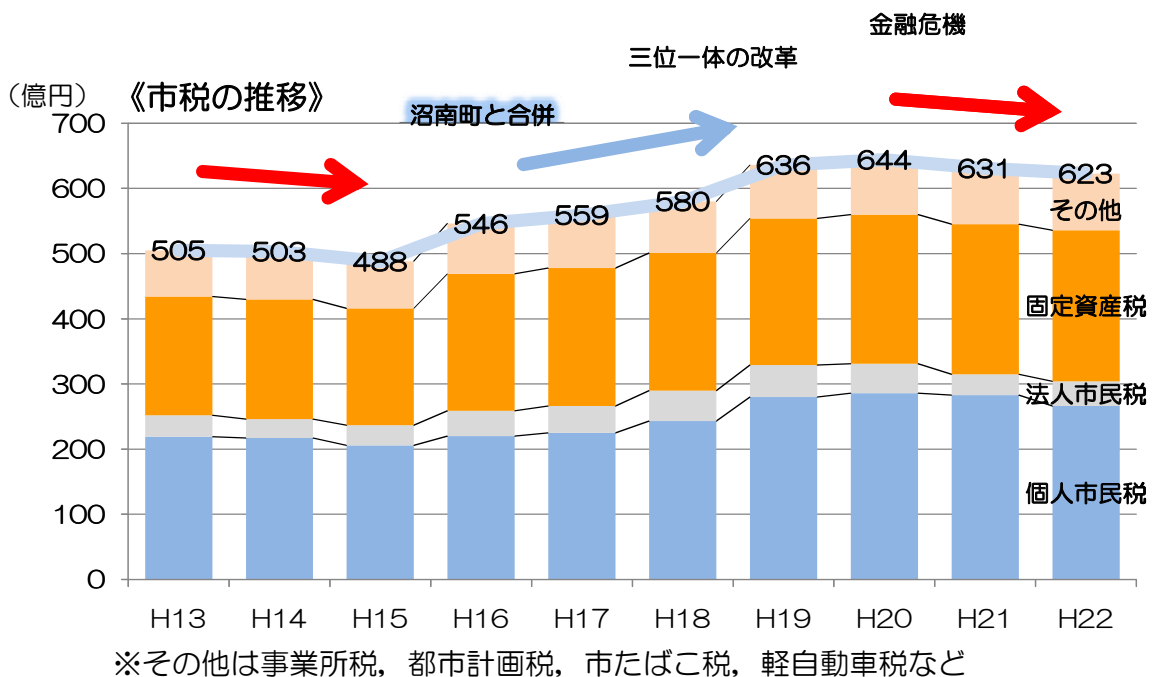
地方自治体の財政規模は、各自治体によって、設置される会計や一般会計の範囲が異なっていて単純には比較できません。
このため、全国統一の基準でつくる統計上の会計が必要になります。



収入の柱である市税収入は2年連続で減少しています

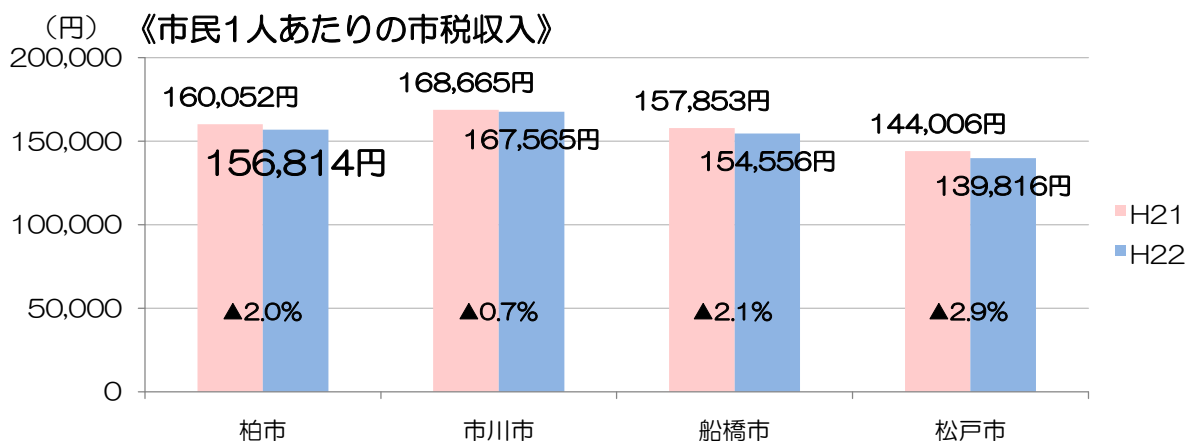
市税は、バブル経済崩壊に伴い長期にわたり減少傾向にありましたが、沼南町との合併や国の税制改革により増加に転じました。しかし、平成20年の世界金融危機以降の景気の低迷により2年連続して減少しています。

※三位一体の改革とは「地方にできる事は地方に、民間にできる事は民間に」という考えの下に、国庫補助負担金の廃止・縮減、国から地方への税源移譲、地方交付税の見直しを一体的に行った改革です。この改革により市民税が増加しました。



1人あたりの市税収入は他市と比べて高い状況にあります。

前年度比較では、減少率は市川市を除く3市は2%台となっています。市税収入（自主財源）が減少すると市独自の事業が困難になっていきます。



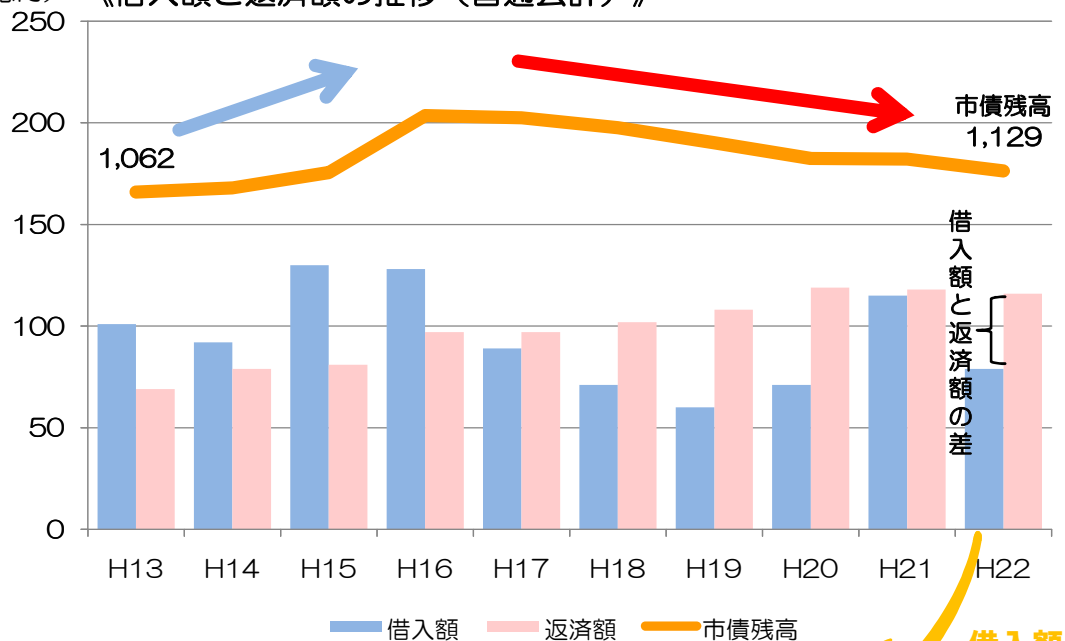
新規の借入を毎年度の元金返済額以内にしています

沼南町との合併以降は、新規の借入を毎年度の元金返済額以内とすることで借金残高を減らしています。

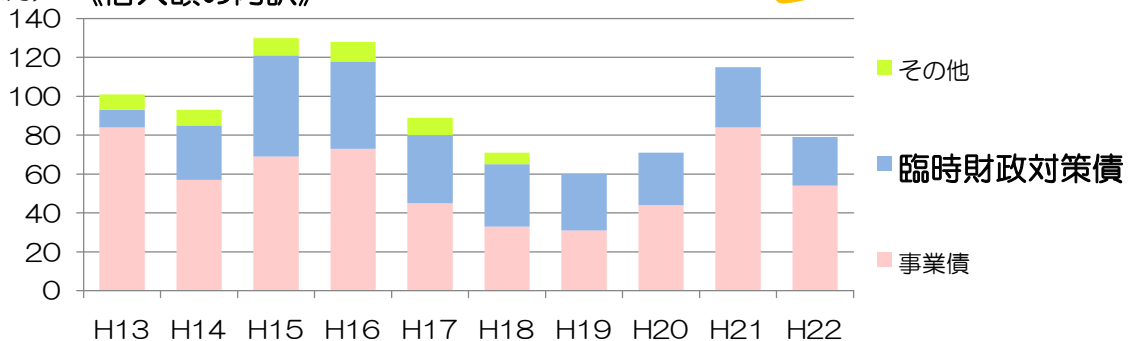
ただし、過去の借入に伴う返済額がピークを迎えているため、毎年度の返済額は高い水準で推移しています。

※借金の状況については「4 柏市の借金はどうなっているの？」で詳しく説明しています。

(億円) 《借入額と返済額の推移(普通会計)》



(億円) 《借入額の内訳》



臨時財政対策債の発行額が増えています。

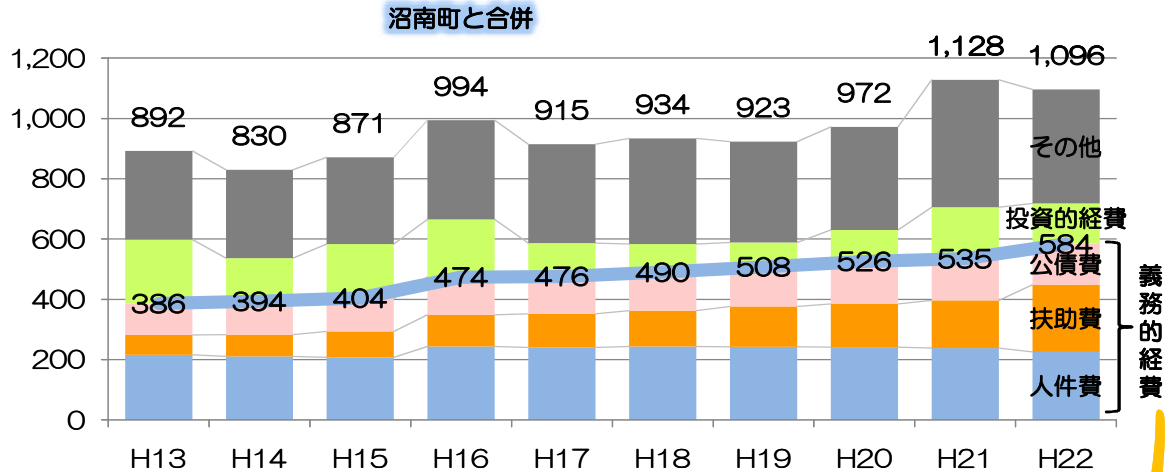
臨時財政対策債とは、国が地方交付税として現金を交付できない代わりに認めている借金です。国の財政が悪化しているため、地方交付税の不足分を借金で賄っている状況が続いています。

義務的経費が年々増えています

人件費、公債費、扶助費を合わせた義務的経費が増大しています。
 義務的経費のうち、
 人件費は給与水準や職員数の適正化により緩やかに減少してきています。
 公債費は返済額がピークを迎えているため横ばい状態です。
 扶助費は年々増加し10年前と比べて3倍以上になっています。

義務的経費の割合が大きくなると、新しいサービスや公共施設の建設などが難しくなります。

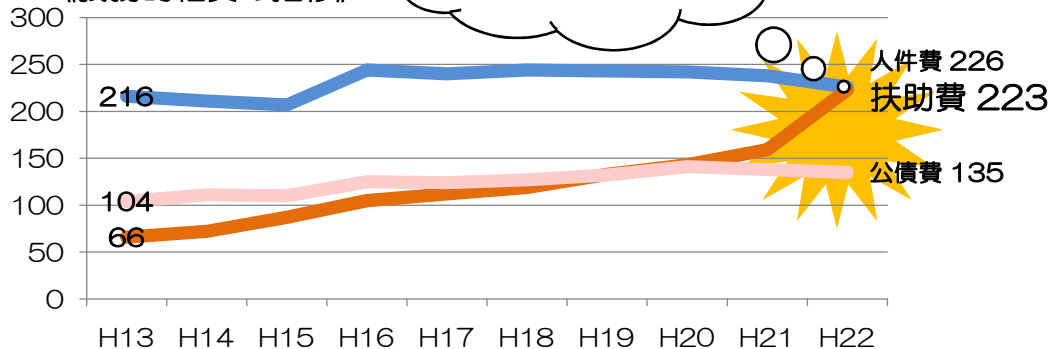
(億円) 《支出総額の推移》



義務的経費のうち扶助費が前年度に比べて大きく伸びています。
 子ども手当の創設（国の制度改正）による影響が大きいですが、
 生活保護費や支援に必要な支出が毎年増加しています。

子ども手当の創設
 で扶助費が大幅に
 増えました！

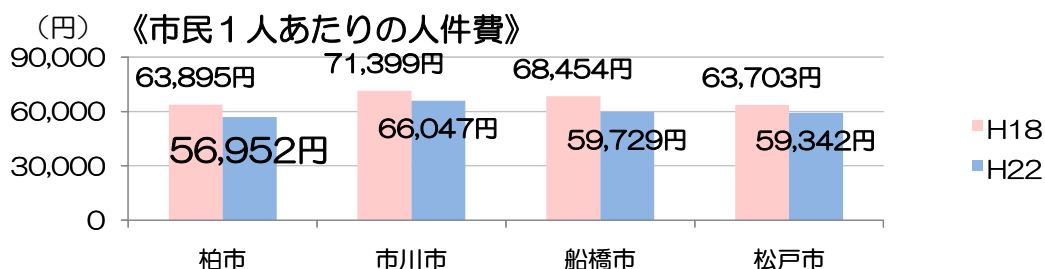
(億円) 《義務的経費の推移》



※人件費、扶助費、公債費は毎年度の支出が義務付けられていて簡単に減らすことができないため「義務的経費」といいます。

義務的経費の市民1人あたりの負担を比べてみました

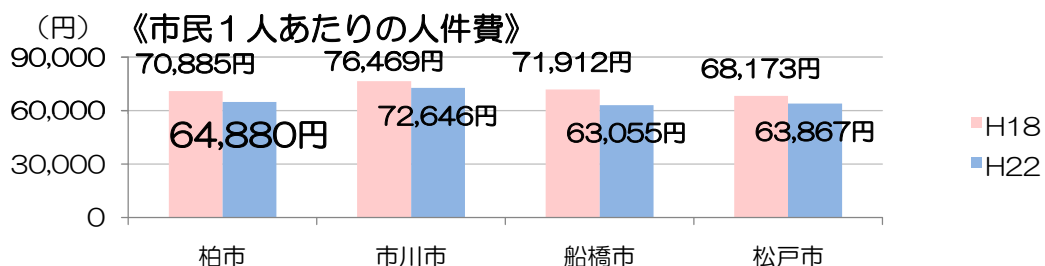
「人件費」は定員や給与水準の適正化のほか、事務事業の臨時職員対応などにより、他市と比べて低くなっています。



しかし…

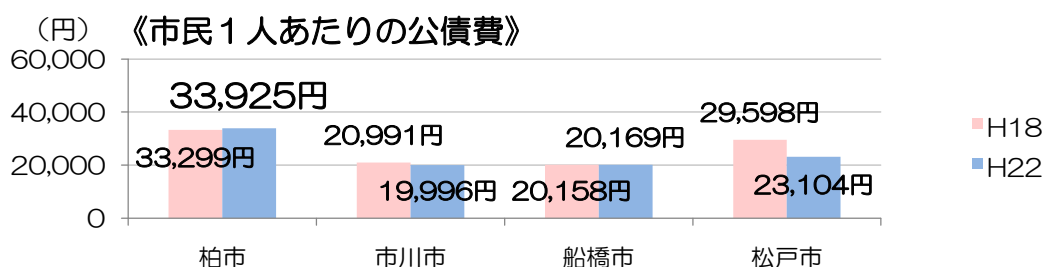
主に正職員の給与である「人件費」と臨時職員の給与である「賃金（物件費）」の合計額で比較してみると…

人に係る支出は平均的な水準になります。柏市は臨時職員に係る支出が大きいことがわかります。



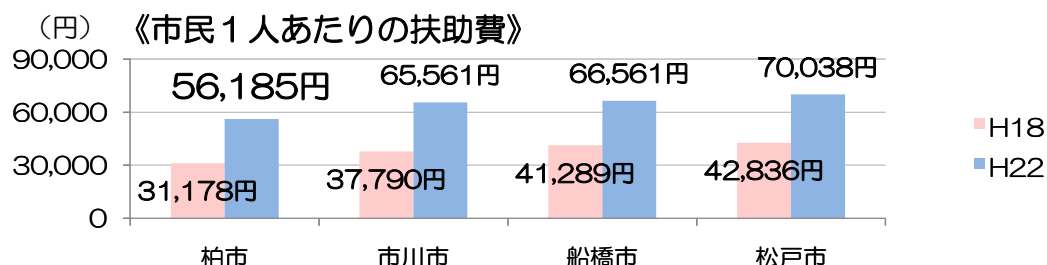
「公債費」、いわゆる借金の返済額は他市と比べて高くなっています。

新規の借入を抑制していますが、これまでにつくばエクスプレス沿線の開発や清掃工場の建設など、公共投資や公共施設の整備を積極的に進めてきたため、返済額は他市と比べて高い状況にあります。



「扶助費」は他市と比べて低いものの、5年間の伸び率は4市の中で一番大きいです。

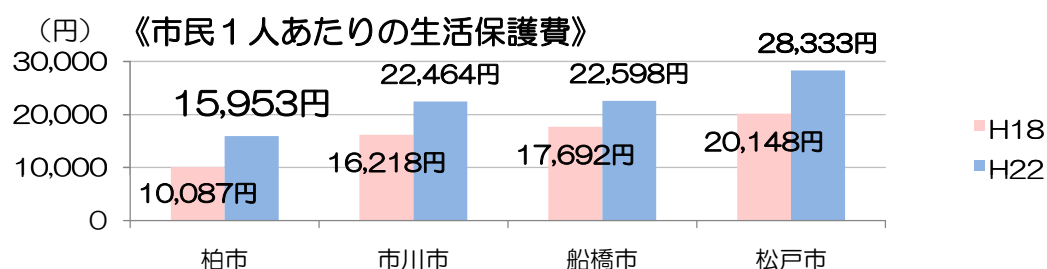
景気の低迷や高齢化の進展により扶助費が増大しています。扶助費は、その支出が法律で義務付けられているものが多く簡単に削減できません。



一番の違いは…

扶助費の特徴として、柏市は生活保護費の負担が4市の中で一番小さいです。

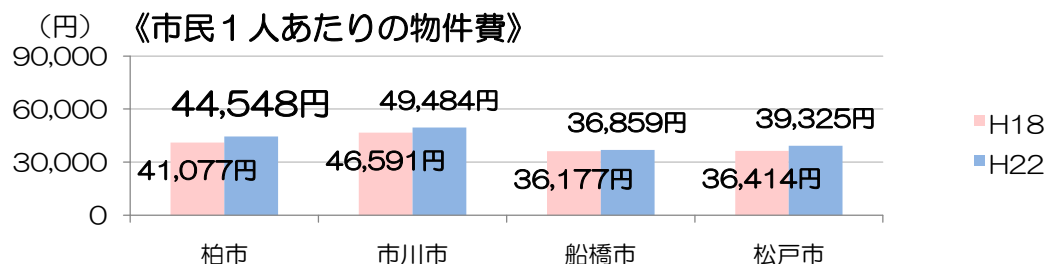
生活保護費は増加傾向ですが、それでも市民1人あたりの負担は他市と比べて低い状況にあります。



こんな違いも…

物件費は市と比べて高くなっています。

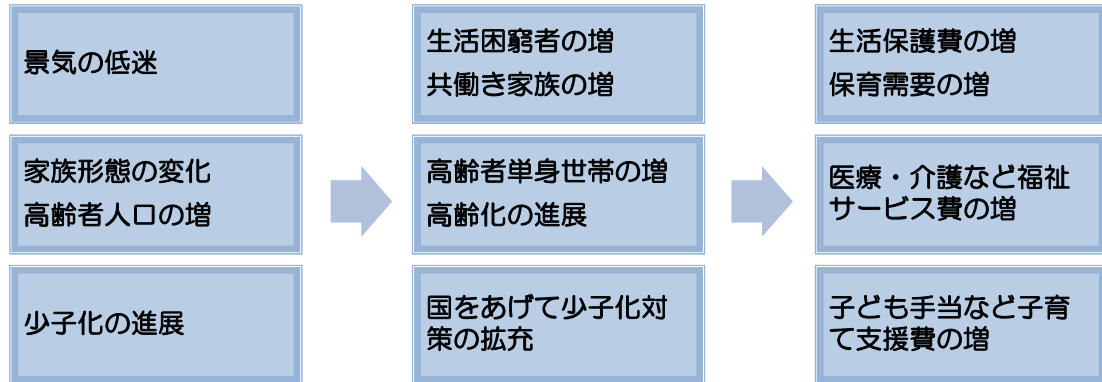
職員が直接業務を行わないで人件費を安くしてサービスを行っています。時間外保育士の臨時職員対応や民間保育園の整備促進、ごみの収集や処理業務の委託化などにより物件費は高くなっています。



なぜ扶助費は増えるの？

少子・高齢化の進展や景気の低迷などを背景に扶助費が毎年増加しています。

《扶助費が増える理由》

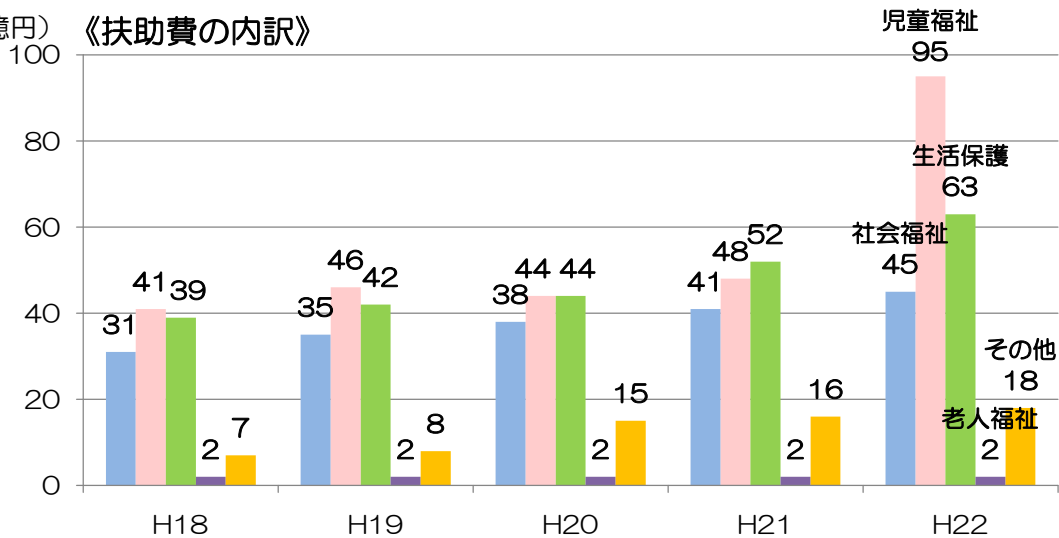


扶助費は何が増えているの？

生活保護費が毎年増加しています。また平成22年度は子ども手当が創設されたことにより児童福祉費が大幅に伸びています。

※老人福祉費が少ないのは、後期高齢者医療や介護保険などの事業が特別会計という別のお財布で処理されているからです。

(億円) 《扶助費の内訳》



景気の低迷だけでなく、これからは高齢者人口や家族形態の変化に伴う高齢者の単身世帯が増えていくため、介護や医療費、生活保護費などの扶助費はさらに増える見通しです。



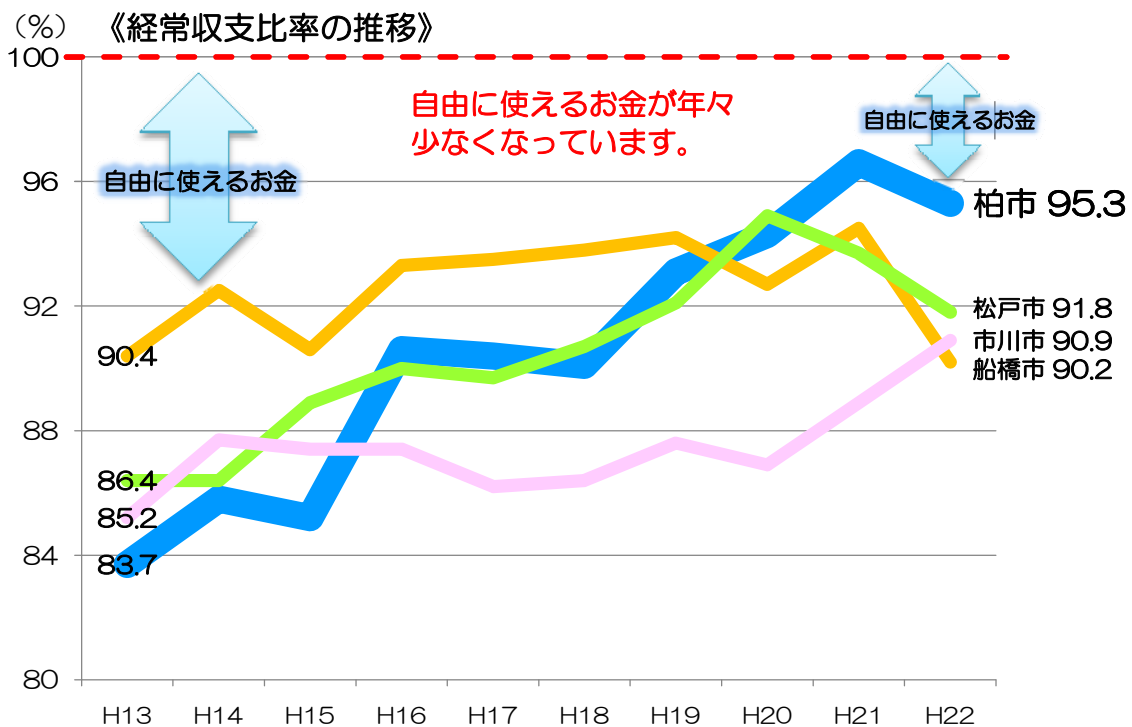
「経常収支比率」で財政状況のゆとりがわかります

経常収支比率は財政の硬直化を示す指標ですが、見方を変えると「自由に使えるお金がどれくらいあるか」を示す指標になり、財政の余力（ゆとり）を測ることができます。

比率は、市税など毎年度決まって収入されるお金が、人件費、公債費、扶助費などの必ず支払わなければならない経費にどれくらい使われているかを示していて、数値が低いほど財政に余裕があるというものです。

柏市の平成22年度の経常収支比率を見てみると、数値は前年度に比べて良くなりましたが、依然として高い水準にあるため、引き続き注意が必要な状況です。

※家計に例えると、給料に占める食費やローン返済額の割合みたいなもので、比率が低ければ自由に使えるお金が多くなるというものです。比率が100%を超えるということは、食費などの決まった支払いだけで給料がすべて出ていってしまい、貯金や借金に頼らないと家計が成り立たないことを表します。



※上のグラフから10年前と比べて財政に余裕がなくなってきていることがわかります。

一般的に市では70~80%程度が望ましいと考えられていて、80%を超えると財政に余裕がないと言われていています。自由に使えるお金が少ないと社会情勢の変化や市民のニーズに対してすぐに対応できないため、「財政に弾力性がない」とか「財政が硬直化している」といいます。

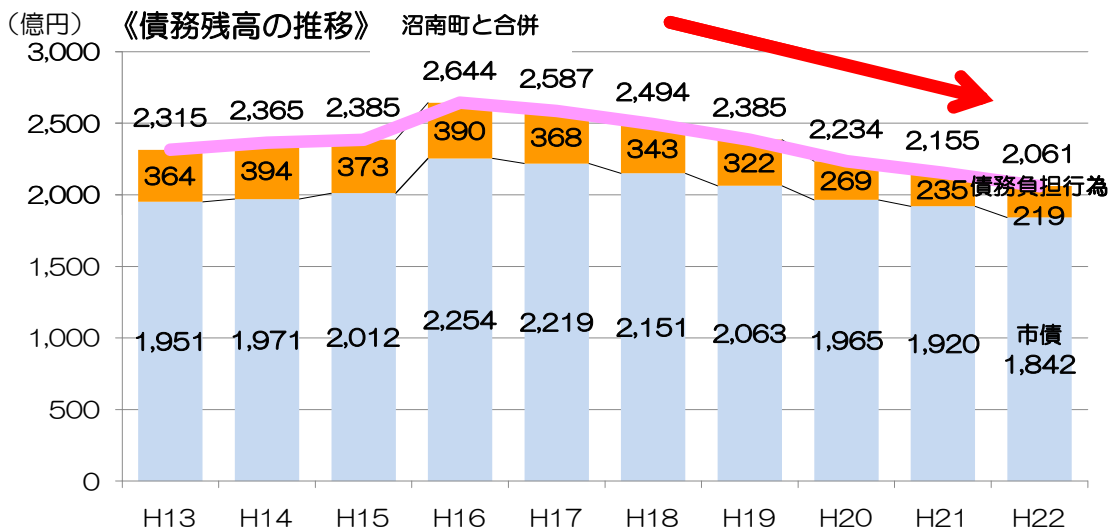


4 柏市の借金はどうなっているの？

借金はどれくらいあるの？

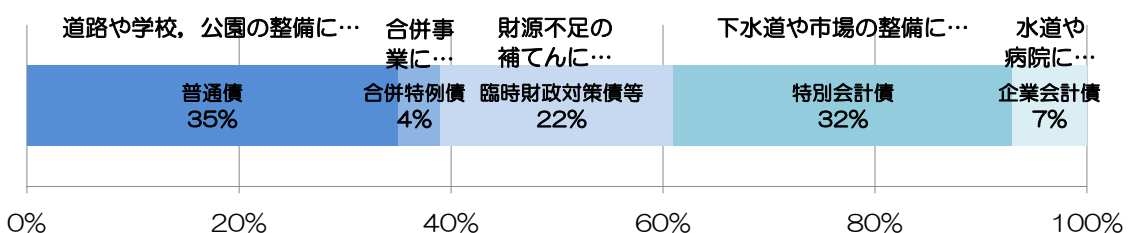
市全体の借金残高は平成22年度末で約**1,842**億円です。
 また借金のほかに、数年間にわたる契約により約束された支払いなどの債務負担行為のうち公債費に準じるものが約**219**億円あります。（主に土地開発公社に先買いしてもらった土地を市が買い戻すための支払いです。）

将来世代に負担を残さないよう「返す以上に借りない」ことを基本に新規の借入を抑制しているため、借金残高は6年連続で減少しています。



借金は、道路や学校、公園など公共施設の整備のほか、本来は国が現金で交付すべき地方交付税の不足分を補うために使われています。

《市債残高1,842億円の内訳》



どうして借金をするの？

市債（借金）には「現在の市民と将来の市民の負担を公平にする役割」と「毎年の支出を平均にする役割」があります。

公共施設の建設には一時期に多額のお金が必要になります。これをその年度の収入だけで賄ってしまうと他の事業ができなくなってしまいます。

また、公共施設は現在の市民だけでなく、長期間にわたって将来の市民も利用するものであるため、公平にその費用を負担してもらうという意味から、市債を活用しています。

借金をしないと…



例えば、小学校の建設にかかった費用を一度に払ってしまうと…

学校や保育園の運営、道路の整備や管理などに必要なお金が足りなくなってしまいます。



また、1人あたりの負担は…

建設費をその年度の市民だけで負担するため1人あたりの負担は大きくなります。

負担

ラクチン!



現在の市民 1年後 2年後 3年後
将来の市民

借金をすると…

将来の市民も公平に建設費用を負担

負担 負担 負担 負担



現在の市民 1年後 2年後 3年後
将来の市民

建設費を多世代で負担するため1人あたりの負担は小さくなります。

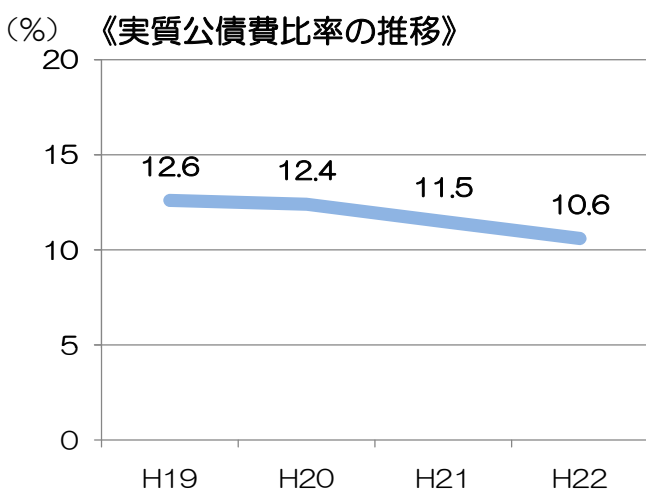
借金の返済は大丈夫なの？

国の基準「実質公債費比率」で見てみると…

借金の返済額が身の丈にあったものかどうかを判断する基準に「実質公債費比率」というものがあります。1年間の収入に対して返済額がどれくらいの割合になるのか、借金返済の負担が大きすぎないかチェックするものです。

この割合が年収の25%を超えるとイエローカードです。柏市の数値は10.6%で国の基準を下回っていますが、県内の市平均より少し高い状態にあります。

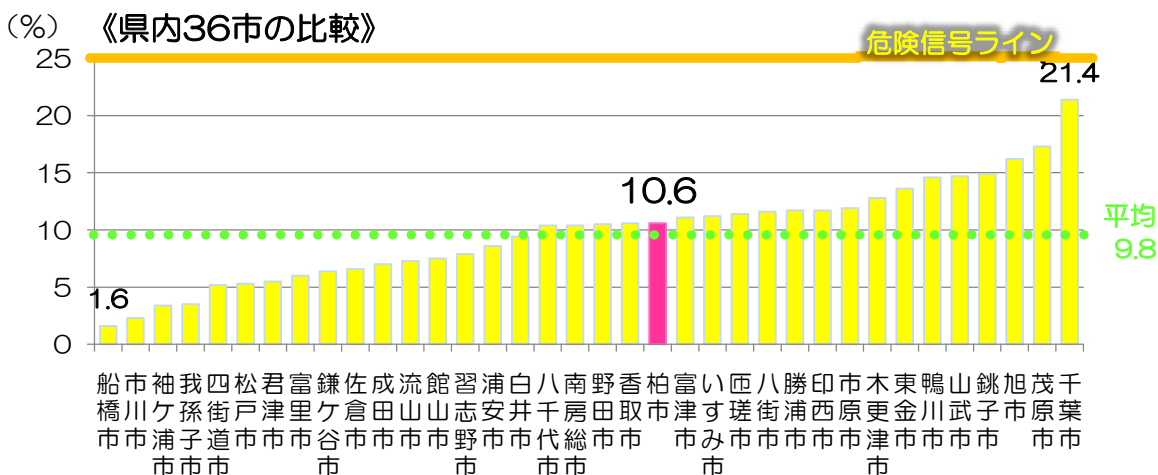
※家計に例えると、家や車のローン、クレジットカードで買い物をした支払いなどの返済額が、年収の25%以上となった場合は、借金返済の可能性が高いということで危険信号です。



平成22年度の実質公債費比率は県内36市中21番目です。



※詳しい内容は「健全化判断比率の公表（市ホームページ）で見ることができます。



※他市の数値は「平成22年度決算に基づく健全化判断比率（見込み）千葉県ホームページ」より

将来の負担は大丈夫なの？

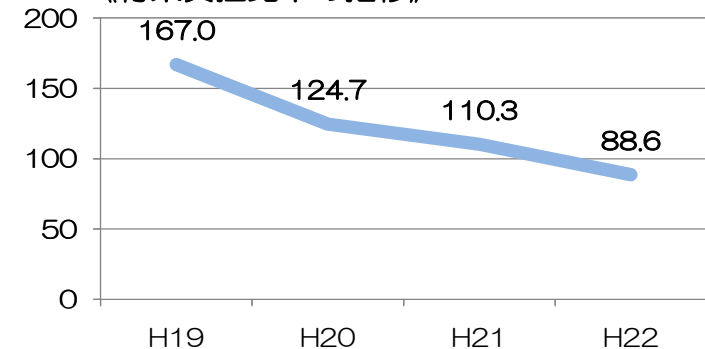
国の基準「将来負担比率」で見ると…

借金や債務負担行為、職員の退職金など、将来支払わなければならない負債が、1年間の収入に対してどれくらいあるのかを判断する基準に「将来負担比率」というものがあります。

この割合が年収の3.5倍を超えるとイエローカードです。柏市の数値は88.6%で県内の市平均よりも少し高い状態にあります。

※家計に例えると、家や車のローン残高、クレジットカードの支払い残高など、これから返済しなければならないお金の総額が年収の3.5倍以上となった場合は、今後ローンの返済に追われ、家計が成り立たなくなるといって危険信号です。

《将来負担比率の推移》

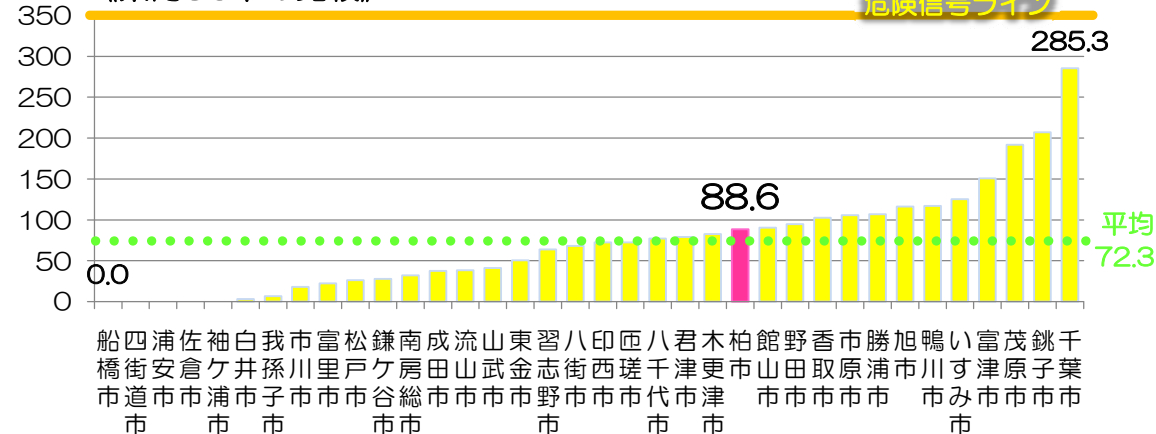


平成22年度の将来負担比率は県内36市中24番目です。国の基準を大きく下回っていますが、県内の市平均から見ると、もう少し借金を減らした方が良いといえます。



※詳しい内容は「健全化判断比率の公表（市ホームページ）」で見ることができます。

《県内36市の比較》



※他市の数値は「平成22年度決算に基づく健全化判断比率（見込み）千葉県ホームページ」より

～ちょっとひと休み～ 健全化判断比率ってなに？

平成19年に地方公共団体の財政破たんを未然に防ぐことを目的に「財政健全化法」という法律ができ、財政状況が良好かどうかを判断する指標「健全化判断比率」を議会や市民の皆さんに公表することが義務付けられました。

健全化判断比率は、①実質赤字比率 ②連結実質赤字比率 ③実質公債費比率 ④将来負担比率の4つの指標で構成されています。

①は普通会計の年間の赤字の状況、②は全会計の年間の赤字の状況、③は借金返済の状況、④は将来負担が見込まれる負債の状況をチェックするものです。

健全化判断比率から見た平成22年度の柏市の財政状況は、いずれの指標も危険信号を示す「早期健全化基準」を下回っています。

(%)

比率	柏市		早期健全化基準 (イエローカード)	財政再生基準 (レッドカード)
	H21	H22		
① 実質赤字比率	△6.92	△5.90	11.25	20
② 連結実質赤字比率	△25.91	△26.59	16.25	35
③ 実質公債費比率	11.5	10.6	25	35
④ 将来負担比率	110.3	88.6	350	

※「△」の表示は数値が黒字であることを示します。平成22年度の実質赤字比率「△5.90%」は黒字率「5.90%」になります。

「早期健全化基準」「財政再生基準」とは…

市の財政状況が悪化し、危うくなったときにイエローカード（早期健全化基準）で警告します。

そして、さらに財政状況が悪化し、自主的に財政の立て直しができなくなったときはレッドカード（財政再生基準）で、国・県の関与のもと確実な財政の立て直しに着手することとなります。



5 柏市に貯金ってあるの？

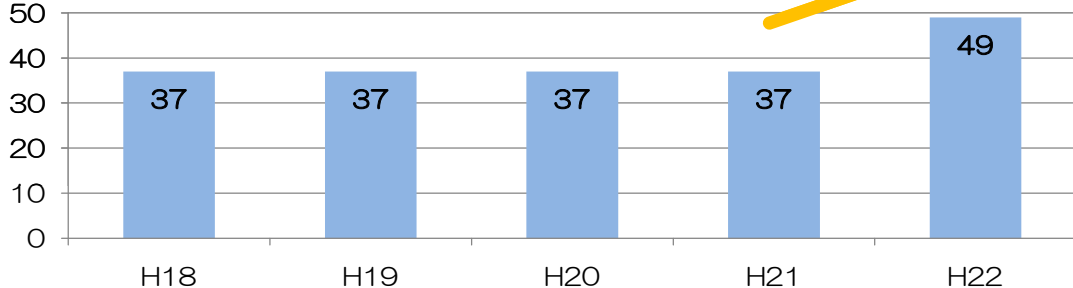
一般家庭に貯金があるように市にも貯金があります

市の貯金のことを基金といいます。基金は大きく使い道が決まっている「特定目的基金」と、財源不足を補うための「財政調整基金」に分けられます。

平成22年度は当初の見込みよりも黒字で運営できたため、将来への備えとして財政調整基金への積み立てを行いました。

※家計に例えると、大きな買い物や子どもの進学のために積み立てる定期預金が「特定目的基金」で、月々の家計がピンチのときや突然の大きな支出が発生したときにおろす普通預金が「財政調整基金」です。

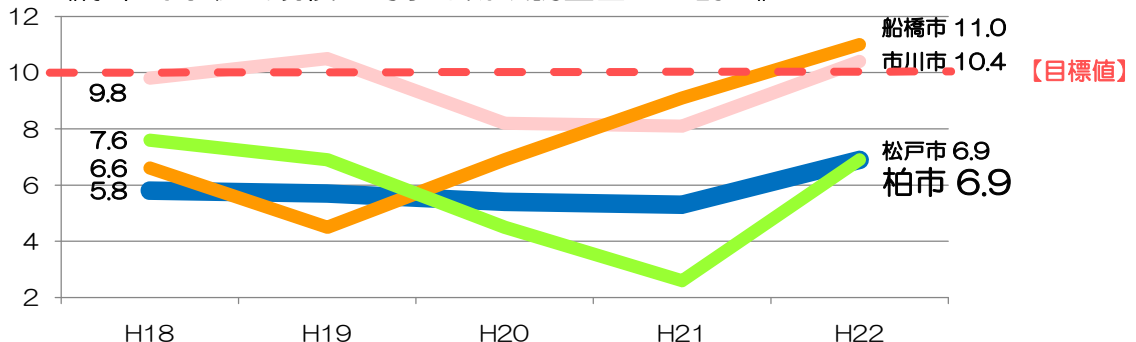
(億円) 《財政調整基金積立高の推移》



老朽化した施設の更新に備えて財政調整基金を強化します。

景気の変動や国の制度改革による大幅な減収、災害などの突然の支出、さらには施設の大規模改修など毎年の収入では賄えない大きな支出に備えて、財政調整基金の積立高を標準的な収入規模の**10%**以上にします。

(%) 《標準的な収入規模に対する財政調整基金の割合》



6

健全な財政運営のためお金の使い方や集め方を見直します

まちづくりにはお金がかかります。しかし景気の急速な回復が期待できない中で福祉や医療など市民生活を支えるお金は今後も増加する見通しです。

そこで柏市では、健全な財政運営をしながら地域の特性を活かしたまちづくりを進めるため、お金の使い方や集め方を見直す計画を作成しました。

柏市行政経営方針(平成23～27年度)

- 事業仕分けなどにより事務事業を見直します
- 職員数や職員給与を見直して人件費を削減します
- 扶助費をはじめとした社会保障費を見直します
- 使っていない財産を売却して財源を確保します
- サービスを利用する方が負担する料金を見直します

数値目標(平成27年度までに)

経常収支比率比 95%以下	将来負担比率 85%以下	財政基盤強化度 10%以上
自由に使えるお 金を増やします	借金を減らし ます	減収や災害など に備えて貯金を 増やします

見直したお金を活用して…

- 笑顔で子育てができるまちづくり
- 高齢者が元気なまちづくり
- 産業に活気があり人が集まるまちづくり
- 市民が安全・安心に暮らせるまちづくり
- 人と環境にやさしい低炭素先進都市のまちづくり

※詳しい内容は「柏市行政経営方針(市ホームページ)」で見ることができます。

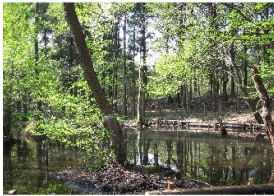
～ちょっとひと休み～

平成22年度に実施した主な事業

平成22年度に柏市が行った事業のうち支出額の大きな建設事業やサービスを挙げてみました。事業に必要なお金（財源）は次のとおりです。

補助	国や県，その他機関からの補助金・交付金
借金	将来にわたって返済していくお金（市債発行額）
市	市税や使用料など柏市の自主財源

こんぶくろ池公園整備事業 地図 A



担当課	公園緑政課	
事業費	13.9億円	
財源	補助	2.4億円
	借金	11.5億円
	市	

都市部に残る貴重な動植物を保全するため、こんぶくろ池（湧水）を中心とした周辺の用地を取得

北部地域小学校整備事業 地図 C



担当課	学校施設課	
事業費	20.7億円	
財源	補助	5億円
	借金	11.8億円
	市	3.9億円

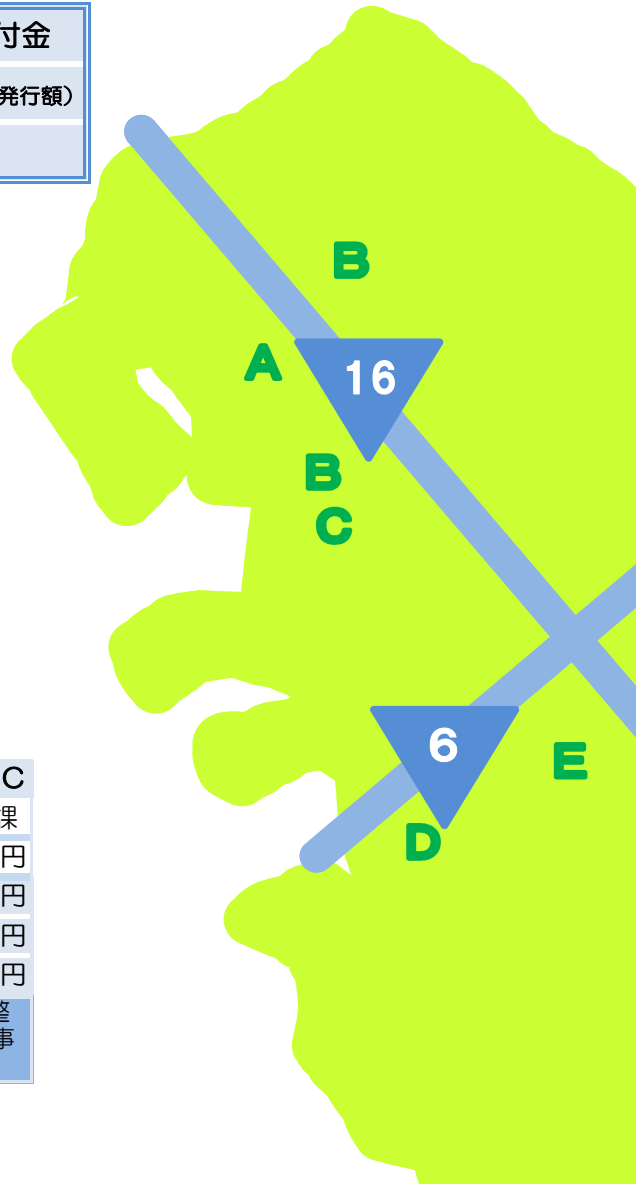
柏の葉キャンパス駅周辺の開発に伴う新設小学校の整備。平成24年4月開校予定（平成20～23年度継続事業）

乳幼児医療費助成事業



担当課	児童育成課	
事業費	7.4億円	
財源	補助	3億円
	借金	
	市	4.4億円

子どもの保健対策の充実及び保護者の経済的負担の軽減を図るため、通院・入院費用の一部を助成。実績約43万件



大堀川右岸第8号雨水幹線整備事業 地図 D



担当課	下水道整備課	
事業費	5.1億円	
財源	補助	2.2億円
	借金	2.6億円
	市	0.3億円

雨による浸水地域を解消するため、国道6号線やJR常磐線の下を横断し、雨水管を設置（平成19～22年度継続事業）

私立保育所整備費補助金

地図 B



担当課	保育課	
	事業費	2.6億円
	補助	2.2億円
財源	借金	
	市	0.4億円

私立保育園に対し整備費の補助を行い、定員増を実現

がん検診事業



担当課	成人健診課	
	事業費	3.6億円
財源	補助	0.2億円
	借金	
	市	3.4億円

がんを早期に発見し適切な治療に結びつけるため、がん検診を実施。一部の検診では対象者に無料クーポンを配布

柏駅東口歩行者専用嵩上式広場整備事業

地図 E



担当課	道路整備課	
	事業費	3.6億円
財源	補助	0.6億円
	借金	2.7億円
	市	0.3億円

昭和48年、柏駅東口に日本で初めて造られたダブルデッキの安全性や機能向上を目的とした改良工事（平成21～23年度継続事業）

手賀東部地区分署建設整備事業

地図 G



担当課	消防総務課	
	事業費	0.8億円
財源	補助	
	借金	0.7億円
	市	0.1億円

沼南消防署から離隔している手賀東部地区に新分署を建設し、消防力の強化を図る（平成22～23年度継続事業）

風早南部小学校移転整備事業

地図 F



担当課	学校施設課	
	事業費	11.6億円
財源	補助	7.1億円
	借金	3.4億円
	市	1.1億円

海上自衛隊の飛行コース下に位置する風早南部小学校の防音機能を復旧させるための移転工事。平成22年7月竣工（平成20～22年度継続事業）

国や県からもらえる補助金も元をたどると皆さんの税金です。借金は、子どもたちが大人になった時に返さなくてはなりません。市民の皆さんが納めた税金を使ってどのようなサービスを行ったのか、詳しくは、決算報告書（市ホームページ）で見ることができます。

どうなっているの柏市の財政 平成22年度版

発行年月 平成23年12月

発行 行 柏市

お問い合わせ先 柏市 財政部 財政課

〒277-8505 千葉県柏市柏五丁目10番1号

電話 04-7167-1120 FAX 04-7167-1210